

2023年7月23日（聖霊降臨後第8主日、特定11、A年）

牧師メッセージ

「神の忍耐」

（マタイによる福音書 13:24-30, 36-43）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音でも、主イエスは天の国をたとえ話によって示されました。

敵が夜の内に毒麦を蒔いてしまいます。それを知った僕らは、「毒麦を抜き集めましょうか」と主人に問いますが、主人はそれを望みません。「麦も一緒に抜くかもしれない」からです。実際、毒麦は実をつけるまでは麦と区別することが難しく、誤って麦まで抜いてしまう恐れがありました。神はこの主人のように、実りを信じ、忍耐してくださる方であることを、今日のたとえは示しています。

主イエスはまさに、神の忍耐をその生き方によって示されました。主イエスは人々から「徴税人や罪人の仲間」と見られていました。洗礼者ヨハネは主イエスが「悪を滅ぼす」ことを期待していたので、主イエスがなかなかそれをしないどころか、罪人との交わりを深めるのを見て疑問を抱き、「来たるべき方は、あなたですか」と問わずにはいられなくなる程でした。主イエスが来られたのは、悪の糾弾ではなく、忍耐と憐れみをもって、人々を悔い改めへと導くためだったのです。神の忍耐により神の憐れみと赦しを経験した者は、神の寛容さを、何よりもその深い愛を知ることになるからです。

しかし、人は忍耐することができません。そのことが先程の僕の言葉に表れています。「毒麦を抜き集めましょうか」と伺い調ですが、内心は早く抜いてしまいたい。なぜなら人は、忍耐する神など信頼しきれないからです。そんな神よりも、すぐに力を発揮してくれる神を求めてしまうのです。そして自分の手で確実に実りを得ようとするから、焦り、刈り取ろうとする。つまり、裁くのです。しかし、その先には神が忍耐の先に実現してくださる豊かさとは遠く離れた、貧しく、寂しい世界しか待っていません。

何においても、何が正しく、何が悪なのかということは、具体的なことになればなるほど分かりにくく、識別は難しくなります。人間的な判断には限界があるのです。であれば、その限界を認め、裁きは神に委ね、自らはみ言葉に誠実に生きようとすることに励みたいと思います。今日のたとえ話しの主人のように、神は忍耐をもって、わたしたちを見つめておられます。目の前のことに囚われ、裁きあうのではなく、その神にならい、神に信頼し、忍耐と憐れみをもって互いを神に愛された存在として祝福しあうこと。わたしたちの共同体がそういう共同体とされることを、心から求めましょう。その先には、「正しい人々は父の国で、互いに太陽のように輝く」世界が用意されています。